

今回紹介する本は、56年前の明日、すなわち8月27日にあつた秘話を記している。20世紀屈指のロックスター、エルビス・プレスリーとジョン・レノンの最初で最後の出会いの物語だ。けんか別れに終わつたため写真すら残らないが、対面をお膳立てした英国の芸能記者クリス・ハッチンソンが2人の死後に出版した本「エルヴィス・ミーツ・ザ・ビートルズ 永遠の宿敵」で細かに再現している。レノンは少年時代に、「レスリーの「ハートブレイク・ホテル」に感激して口

朝刊太郎の雑記帳

かみべっぷ やすよし
上別府 保慶

ツクンロールにのめり込み
ギターを賣つた。プレスリー
一も、皇室のジュークボッ
クスにビートルズのレコード
ドを入れて聴いていた。

の4人は2度目の訪米でサンゼルスのプレスリー邸に招かれた。それはイランの国王や大女優のリタ・ヘイワースが前に住んだ屋敷で、4人は暖炉があるバーで一夜部屋に通された。プレスリーはU字形ソファの真ん中に座り、隣には婚約者のプリシラ、周囲には取り巻きたちがいた。レノンは映画「ピンク・

レノン VS プレスリー

パンサー」のクルーザー警部の声色で「おお、あなたですね！」とおどけたが、今風に言えば滑った。4人はプレスリーの両脇に座つたものの気まずい沈黙が漂う。プレスリーにはこうこう年以上ヒット曲がなく、米国のチャートを席巻するジートルズにどう向き合おうか戸惑つていたのだ。

プレスリーはいじついてたテレビのリモコンを放り出し「君たちみんな、そうやってぼくをじっと見ていいつもり? 音楽について話したり、ことによつたら、ちょっと一緒にプレイして

「もいいのに」と言つた。
皮肉屋のレノンと違つて
社交家のポール・マッカートニーが「それはいいな幸運！」と場を救つた。フレディーはベース。レノンとジョン・レノン・ハリスンはギタリスト。マッカートニーはピアノ。リング・スターはドラムがないので玉突きをした。
見事な演奏が続いたが、フレスリーがビートルズの「アイ・フィール・ファイン」を弾き始めた時、レノンが「なぜあなたは昔のロックを捨てたんですか」と挑発した。レノンは敬愛するロック界の王が出演する

歌謡映画の軽さが気に入らなかつたし、愛国者としてベトナム戦争を支持するのにも失望していた。

兵役で陸軍軍曹まで務めたプレスリーは立ち上がりつた。「あいつは頭がイカレきつてゐるぞ」。怒りは後々まで収まらなかつた。米国でベトナム反戦運動をするレノンの国外追放を求め、政府に手紙まで書いた。

対面を記した本の和訳は95年にシンコー・ミュージックが出版。福岡市総合図書館などにあるが今は新型コロナ禍で閉館中である。

(特別編集委員)